

気泡緩衝材のプチ情報

私たちの身の回りで最も身近な緩衝材である気泡緩衝材。そんな気泡緩衝材について、今回は3つのプチ情報をご紹介します。

①気泡緩衝材の粒の向き

気泡緩衝材を使用するとき、粒を外側と内側のどちらにした方がよいのか迷ったことはありませんか？

粒の向きにはそれぞれメリットがあります。まず、粒を内側にした場合は、粒で内容物が固定されるため、粒を外にした場合よりも緩衝力が上がります。対して、粒を外側にした場合は、粒と内容物が接触しないため、作業がスムーズに行えます。また、粒が直接内容物に触れないため、粒の跡が残りにくいというメリットもあります。

状況に合わせて、粒の向きを変えるのがオススメです。

②手で切れる気泡緩衝材

通常、気泡緩衝材を手で切ろうとすると、フィルムが伸びてしまい綺麗に切れません。そのため、カッターを使って切るのが一般的です。しかし、手で簡単に切ることができ、一定の方向に裂けやすくなるように製造された気泡緩衝材があります。

通常の気泡緩衝材



フィルムが伸びてしまい切れない。

手で切れる気泡緩衝



簡単にまっすぐ切ることができる。

③自己粘着性のフィルム



フィルム同士がくっつく状態のことを『自己粘着性』といいます。

自己粘着の性質があるフィルム使った気泡緩衝材があります。これは、包装するときにフィルム同士がくっつくので内容物が動きにくく、通常の気泡緩衝材よりも早く包装でき、テープを使用する手間を省くことができます。

※一部の金属、プラスチック、ガラスには粒跡がつくことがありますので、直接の梱包は避けてください。

持っても内容物が落ちないほど、気泡緩衝材同士がぴったりとくっついています。

様々な特性をもった気泡緩衝材。詳しくは一度営業担当までお問い合わせください。

参考文献:酒井化学工業 <http://www.sakai-grp.com/>